

# 環境のまちづくり

研究組織：足尾地域の産業遺産の保存・活用と環境学習推進協働会議

所属・職・氏名：大学側 工学部建設学科 永井 護

自治体側 日光市教育委員会生涯学習課 高橋 敏明、宮本 史夫

## 1、はじめに

日光市足尾町においては、一昨年度、本学を含む6つの団体で構成される「足尾地域の産業遺産の保存・活用と環境学習推進協働会議」が発足され、足尾銅山の環境保護と産銅の歴史を活かしたまちづくりが継続的に行われている。

その中で、本事業ではガイドサービスの充実を図ることを目的としている。すなわち「掛水倶楽部」や「足尾銅山観光」などの施設へ訪れる人々が、より充実した内容を学習できるよう、産銅に関する各種展示品や史料に関する歴史的価値、足尾における治山・治水事業の大切さなどを示す解説書を協議会の構成員の協力の下に充実しようとするものである。近代化遺産である足尾銅山をテーマとしたまちづくりにおいては、来訪者へのガイドサービスが特に重要な要素となる。遺産の意味をどのように伝えるかが、まちの魅力に大きく影響するからである。

ガイドの作業部会を起し、昨年度は当事業の支援により、環境学習や産銅の歴史を活用したガイド事業に資する解説書の作成が行われ、主要な施設と市街地をガイドするための解説書が作成された。

今年度は、解説書の充実を図るとともに、一部の施設で実際に解説書に基づくガイドの研修を行い、新たなガイドの養成を試みた。

## 2、事業内容

今年度の事業を以下に示す。

### 1) 全体会議

作業部会の全体会議を2回開催し、本年度の作業方針と各部会の途中経過の報告会を行った。



写1 全体会議の風景

### 2) 子供向けの解説書の編集

子供たちに足尾の歴史を理解してもらうために、わかりやすい解説書を小冊子として編集した。



図1 子供向け解説書（表紙）



図2 子供向け解説書（銅の用途の解説）

内容（図1、2参照）は下記のとおりである。

「足尾から未来へのメッセージ」

1. 電気を運ぶには「銅」が必要
2. 生活に欠かせない金属「銅」
3. 「銅」はどこから？
4. 足尾銅山のはじまりと概要
5. 江戸時代の足尾銅山
6. 海外では「電気」が実用化される
7. 足尾銅山の復活
8. 需要の増加と鉱害
9. その後の足尾銅山の公害対策
10. 閉山後も続く公害対策

この解説書は、具体的に下記のような使い方を想定している。

- 地域（日光市内）の子供たちに足尾の歴史に興味を持ってもらうために、市内の小学校に副読本として配布する。  
さらに、学校へ解説委員を派遣して出前講座を実施することを検討している。
- 社会科見学等で来訪する小学生のための解説書として使用する。  
各施設での解説の際の参考資料として利用する。
- その他、観光で来訪した人々への地域のPR資料として活用する。

3) 解説書充実のための基礎資料の収集・整理

解説書を充実するために、以下の資料の収集・整理を行った。

- 他の類似鉱山との比較のための資料の収集  
他の類似事例と比較を行い、足尾の資産が持つ歴史的な価値について考察した。

表1は、比較事例の資産の記述の方法を比較したものである。資産の種類やロケーションにより、記述の仕方が大きく異なる。

所在国	推薦資産 [nominated property]	文化的景観 [cultural landscape]	シリアル/ミ ネーション [serial monument]	構成資産の特徴[component features]			文化財 ＜※日本のみ 指定予定含む＞	緩衝地帯 [buffer zone]
				資産の空間的な まとまり	構成要素の種類	資産の記述 のタイプ [構成要素の数]		
英国	コーンウォールと西 デボン州の鉱山景観	○	○	10	7	クロス		無
英国	ブレナヴォンの産業 景観	○	×	1	記述なし	混合型 [9]		無
日本	石見銅山とその文 化的景観	○	×	1	3	ハイアラキー [14]	記述なし	有
日本	金を中心とした佐渡 銅山の遺産群	○	?	検討中	<sup>2</sup> ＜筆者の見解＞ [?]	ハイアラキー [11]	(116)	検討中
日本	富岡製糸場と絹産 業遺産群	×	?	7 (10)	記述なし (3)	混合型 [7]	(10)	有 ＜一部検討中＞
日本	九州・山口の近代 化産業遺産群	×	○	8	記述なし (4)	ハイアラキー [28]	(22)	有 ＜一部検討中＞

注)  
・()内の数字は提案書のデータ  
・横軸の各項目は下記の内容を示す。  
文化的景観: 世界遺産における文化的景観に該当する場合(○)、非該当の場合(×)  
シリアル/ミネーション: 該当する場合(○)、該当しない場合(×)  
資産の空間的なまとまり: 資産の空間的なまとまりの数  
構成資産の種類: 構成要素を一般名目で分けた場合のその数  
構成要素: レポート・報告書における「資産の記述」における構成資産の数  
文化財: 提案書に示された文化財の数  
緩衝地帯: ハッファージョンの有無

表1 資産の記述方法の比較

- 足尾の産業遺産リストの編集と特殊な遺産の扱い  
これまで、収集してきた調査資料を整理して、一覧表の形で整理するとともに、資源の位置をマッピングできるように改善した。  
図3は、足尾の資産の特徴を踏まえて、資産構成を表した図である。採鉱から選鉱、製錬のための生産施設と生産工程で生み出される廃棄物を処理する環境対策施設が一つの循環系を構成していることが足尾の特徴である。それを拠点に労働者が生活するための生活・文化施設が配置されている。

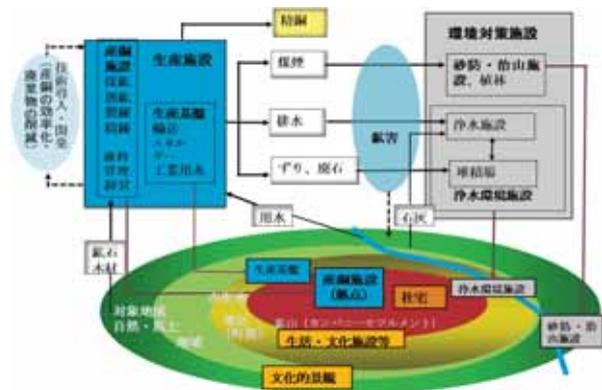


図3 足尾の構成資産の種類

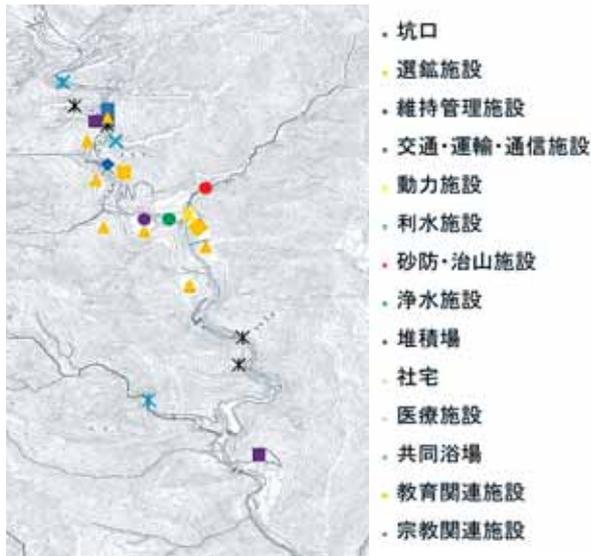


図4 小滝地区の資産のマッピング

図4は小滝地区の資産の分布を示したものである。足尾銅山自体は、全体として江戸時代からの銅山の再開発として、近代化が進められたが、同地区はその中であって、明治10年代に近代化が推し進められるなかで、新たに古河により計画的に開発されたために、近代鉱山集落の形態とその変遷が明確に読み取れることが特徴である。

表2に、足尾の主要な遺産を地区別にまとめた。赤字で示したものは、保全のための取り扱いを検討する必要がある物件である。

これらを今後活用して、解説書の充実を図る予定である。

種類・地区	生産施設	環境対策施設	生活・都市施設
北部地区	松木	足尾銅山(遺跡) 足尾銅山(遺跡)	足尾銅山神社(宗教関連施設)
	本山	本山(坑口) 本山製錬所(製錬施設) 製錬所大煙突(製錬施設) 製錬所貯蔵タンク(製錬施設) 古河町:交通・運輸・通信施設 本山町:交通・運輸・通信施設 本山動力所(動力施設)	本山製錬所 製錬所大煙突 製錬所貯蔵タンク 【足尾銅山(遺跡)】
	間藤	第一松木川橋梁(交通・運輸・通信関連施設)	本山小字講堂(教育関連施設)
中央地区	松水	古河清水製錬所(製錬施設) 赤塚瓦葺倉庫(維持管理施設) 電話交換所 【赤字】 足尾町:交通・運輸・通信施設	富貴夜宅跡(社宅) 【富貴夜宅(社宅)】
	宿	【赤字】	足尾キリスト教会(宗教関連施設)
	通洞	通洞北(坑口) 【赤字】 通洞製錬場(製錬施設) 通洞内貯蔵タンク(製錬施設) 通洞町:交通・運輸・通信施設 通洞子動力発電所(動力施設) 通洞電力所(動力施設) 通洞動力所(動力施設) 第二富貴川貯蔵(交通・運輸・通信施設)	赤子浄水場(浄水施設) 【足尾製錬場(製錬場)】
小滝地区	小滝車道トンネル(所有) 交通・運輸・通信施設 宇敷野火薬庫(維持管理施設)	小滝の古河の集落	

表2 足尾における主要な構成資産

#### 4) ガイドの研修会

掛水倶楽部や銅山観光等の施設でガイドを行うための解説書を昨年度作成した。それを用いて実際にガイドの研修を行った。写真2は部会委員を対象に銅山観光で施設管理者がガイド研修として、解説を行った際(12月8日)の風景である。また、写真3は実際に来訪者の依頼によりガイドを実施している風景である。

それぞれの場所により、来訪者のスケジュールと季節毎の施設の混雑状況等を勘案して、臨機応変にガイドサービスは行われる必要があり、より実践的な現場での改善が必要である。

### 3、成果と課題

ガイドサービスについては、以下の3点に関する充実が求められている。

- ①解説書の充実
- ②顧客情報の入手方法とガイドを行う機会の設定
- ③ガイドの人材養成

この2年間で、①に関しては解説書の充実と多様化が図られ、着実に成果があげられたと言える。

②に関しては、関係する部署への顧客からの問い合わせを統一的に集約するルール作りが課題となる。来訪者は、観光客をはじめ、学校の社会科見学、あるいは松木沢の植林参加者等多岐にわたるため、問合せ先が分散し、対応がまちまちである。まず、共同会議で、ガイドサービスについては当作業部会で統一的に提供する旨の了解をえて、各部署の担当者が一同に開ける組織へと拡大することが望まれる。施設ごとに管理主体が異なるため、管理者とのより具体的な、協力関係を個別に検討する必要がある。

③については、まず施設の管理に携わっている人々がガイドを行えるよう、研修をさらに積むことが大切と思われる。次に、地元の足尾地区内の人材発掘をさらに行うとともに、日光市の他地区の人材への働きかけも必要であると考えられる。

現在の所、足尾地区でのガイドに対する需要は、

本業として成立するまでには至っていないため、ボランティアとしての参加に頼らざるを得ないのが実情である。従って、全体のまちづくりの進捗状況に合わせて少しずつガイドサービスの充実も図っていくことが肝要である。



写 2 ガイド研修の風景（銅山観光にて）



写 3 ガイド実施風景（銀山平にて）